

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：64302

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26870709

研究課題名(和文)18世紀上方・江戸における出版と都市文化の関連性-西川祐信を中心として-

研究課題名(英文)Publishing and Urban Culture in Eighteenth-Century Kamigata and Edo: With Focus on Nishikawa Sukenobu

研究代表者

石上 阿希(Ishigami, Aki)

国際日本文化研究センター・研究部・特任助教

研究者番号：20516819

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、江戸中期に活躍した西川祐信(1671～1750)に着目し、18世紀上方出版文化から江戸の都市文化へと続く知の連環を考察した。

(1) 国内外の所蔵機関で祐信作品の調査を行い、「西川祐信総合作品データベース」を公開した。(2) 月1回「西川祐信雛形本研究会」を開催し、文学史、美術史、染織史などの研究者約10名で『正徳雛形』の翻刻・語釈を行っている。(3) 祐信作品に繋がるものとして上方を中心に出版された絵入百科事典に着目し、「近世期絵入百科事典データベース」を構築・公開した。2017年7月に「国際シンポジウム 絵とことばの350年」を国際日本文化研究センターで開催。

研究成果の概要(英文)：In this research, focusing on Sukenobu Nishikawa (1671 - 1750) who was active in the middle Edo period, I studied the linkage of knowledge that followed the 18th century the publication culture in Kamigata to the urban culture of Edo.

(1) Survey of Sukenobu's work at domestic and overseas collection, and published "A Comprehensive Database of ishikawa Sukenobu' work". (2) The monthly seminars for the study of the Shotoku hinagata, a kimono pattern book created by Sukenobu has been held. The member are ten researchers including literary history, art history, dyeing history, etc. We have reprinted and translated "Shotoku Hinagata". (3) Paying attention to the encyclopedia encyclopedia published mainly in Kamigata as a thing leading to Sukenobu, I built and published "Database of Edo Illustrated Encyclopedias". I held a symposium "350 Years of Images and Words in Illustrated Books" at the International Center for Japanese Culture Research in July 2017.

研究分野：日本近世文化史

キーワード：出版文化 西川祐信 雛形本 データベース 京都 視覚文化

1. 研究開始当初の背景

西川祐信は、江戸中期に京都を拠点として活躍した浮世絵師である。祐信は実に様々な媒体において作品を制作していた。その内容は、風俗画から教訓絵本や着物雛形本、浮世草子の挿絵や画論、艶本など多岐に亘る。祐信の周囲を見渡すと、そこには当時の上方における知識人や絵師、版元などのネットワークが浮かび上がってくる。

ただし、申請者が指摘するまでもなく、祐信の作品が江戸の文化として栄えた錦絵の表現の起点となっていることは、小林忠氏(『春信』1970年)や田辺昌子氏(「鈴木春信の図柄借用—見立の趣向としての再評価」1990年)などの研究によって明らかにされている。しかし、ここで言及されているのは絵本から浮世絵への影響のみである。本研究では、より複眼的に祐信の作品を文学や風俗、社会背景など同時代のコンテキストで考察する。

申請者はこれまでに西川祐信を起点として複数の学問分野の研究者と連携した研究を行うことで、総合的な江戸文化研究を行ってきた(科研費若手研究(B)H.23 - H.24)。祐信が大和絵の伝統を受けながら独自性を発揮した手法や、『枕草子』などの古典文学の普及に果たした役割、漆器の文様と祐信絵本の関係性など、文学史、美術史、装飾史の研究者から問題提起があった。

この研究によって、祐信から派生する文学、美術、工芸の展開を明らかにしたが、祐信作品の全体像を見渡せる作品目録が必要であること、多様な文化背景を踏まえた祐信作品の分析が必要であることが問題点として挙げられた。

2. 研究の目的

上記のような研究の背景を踏まえ、本

研究では以下の点を目的とする。

- ◆ 祐信全作品目録の作成
- ◆ 未翻刻資料の調査・翻刻
- ◆ 多分野の研究者による共同研究会
- ◆ 上記の研究を踏まえ、祐信を核とした文化の展開と交流の実態解明

3. 研究の方法

(1) 西川祐信全作品目録の作成、データベースの構築

以下の項目を対象に、西川祐信作品の総合目録を作成する。

一枚絵(肉筆、版画) 挿絵本(浮世草子、役者評判記) 春画・艶本、絵本、雛形本

「1. 研究開始当初の背景」で述べたように、祐信の作品周辺には版元や作者だけでなく、知識人や画家、文人が存在しており、更にその影響は地域・時代を超え、江戸の好事家・浮世絵師にまで及んでいる。本データベースでは、作品検索だけでなく、祐信周辺の人物の検索や、作品間での影響関係を明示するようなシステムを構築する。それによって、18世紀の上方出版文化を支えていたネットワークや、上方文化の江戸への影響を調べる有効なツールを目指す。

(2) 着物表現からみた、文学との繋がり、社会的背景の考察

これまでの共同研究では、文学史、美術史、服飾史から研究を行ってきたが、特に着物と文学という関連性は新しい視点となった。本研究では、この点に着目し、祐信が制作した着物の雛形本(模様の見本帳)が、文学作品から受けた影響を指摘し、服飾と文学、出版文化と風俗の関係性を明らかにする。また階級や性別による模様を描き分けに着目し、同時代の公家や武士、歌舞伎役者、遊女、町人が実際に用いていた衣裳と比較することで都市文化への繋がりを考察す

る。さらに、江戸で出版された雛形本への影響を指摘し、上方から江戸への情報伝達、文化流入について考察する。

4. 研究成果

(1) 西川祐信全作品目録の作成、データベースの構築

西川祐信の絵本・雛形本を中心に下記の所蔵機関において書誌調査・撮影を行った。

【国内】

国立国会図書館

三井文庫

千總コレクション

J.フロントリテイリング史料館

【国外】

ホノルル美術館レインコレクション

メトロポリタン美術館

コロンビア大学

NY 公立図書館スペンサーコレクション

大英博物館

これらの調査をもとに、「西川祐信作品総合データベース」(<http://sukenobu.net/>)を構築し、2016年に公開をスタートした。これによって研究成果を広く一般に発信している。また、本サイトでは、前回の科研費若手研究(B)で刊行した論文集『西川祐信を読む』の全頁PDFも公開した。

(2) 着物表現からみた、文学との繋がり、

社会的背景の考察

毎月1回「西川祐信雛形本研究会」を立命館大学アート・リサーチセンターで開催した。本研究の期間中(H.26 - H.29)の開催数は33回となる。『正徳雛形』に掲載された図案53図の翻刻・語釈を行った。

文学史、美術史、染織史などの研究者約10名で『正徳雛形』の翻刻・語釈を行った。また、諸本調査も行った。

開催実績

第15～47回、立命館大学アート・リサーチセンター、2015年4月～2018年3月毎月1回

(3) 関連データベース公開と国際シンポジウム開催

上方の啓蒙主義的書物の潮流を明らかにするため「絵入百科事典データベース」

(<http://dbserver.nichibun.ac.jp/EHJ/index.html>)を構築・公開した。また、雛形本研究会での研究を核にして「国際シンポジウム絵とことばの350年」を国際日本文化研究センターで開催した。

本研究で作成した目録は完成版ではなく

今後も調査・増補を行っていくが、一部からでも目録を公開することで祐信研究の基盤整備を進めることができた。また、雛形本研究会では「着物」「出版」「文学」「風俗」などの切り口から『正徳雛形』を読み解いており、時代やジャンルを限らず多様な研究者が参加することで多角的に京都の出版と都市文化の関連性を考察した。その問題意識の展開として、上方における絵入百科事典の出版についての研究・データベースの構築があり、その成果を国際シンポジウムとして発信した。

雛形本研究会は引き続き継続し、最終的に出版とデータベースの公開を行う。また、「絵入百科事典データベース」も引き続き更新を行う。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3件)

石上阿希「古典文学と艶本」、『書物学』、査読無、2号、2014年5月、pp.13-15

石上阿希「近世期絵入百科事典データベース」について、『専門図書館』、査読無、286号、2017年11月、pp.36-39

石上阿希「『訓蒙図彙』考序論：絵入百科事典データベース構築とともに」、『南太平洋から見る日本研究：歴史、政治、文学、芸術』、査読有、2018年3月、pp.69-78

〔学会発表〕(計 6件)

石上阿希「春画を展覧するということ」、『日本近世文学学会平成26年度春季大会 パネルディスカッション、上智大学、東京、2014年6月1日

石上阿希「春本・春画の読まれ方 - 男の読書・女の読書」、『国際シンポジウム「男たちの性愛 春本と春画と」』、国文学研究資料館、東京、2014年12月6日

石上阿希・矢野明子「春画の「日常性」」、『藝関連シンポジウム 日常のポエティックス』、京都国立近代美術館、2015年6月13日

石上阿希「出版物にみる知識の収集と展開 - 絵入百科事典を中心に」、『海外シンポジウム 南太平洋から見る日本研究：歴史、政治、文学、芸術』、ニュージーランド・オタゴ大学、2016年11月25日

石上阿希「絵入百科事典の系譜と展開 - 『訓蒙図彙』を中心に -」、『国際シンポジウム 2016「絵入り本と日本文化(絵入本ワークショップ)」』、東洋文庫ミュージアム、

2016年12月11日

研究者番号：20516819

石上阿希「絵と言葉の伝播 - 『訓蒙図彙』から近世期絵入百科事典データベースまで」
「 - 近世期絵入百科事典データベース公開記念 - 書物にみる絵とことばの350年」、国際日本文化研究センター、2017年7月25日

(2)研究分担者 ()

研究者番号：

(3)連携研究者 ()

研究者番号：

(4)研究協力者 ()

〔図書〕(計 1件)

長谷川強、『浮世草子大事典』編集委員(編)『江戸時代の社会・風俗がわかる 浮世草子大事典』(石上阿希解題：西川祐信画『色ひいな形』、西川祐信画『情ひいな形』、『風流足分船』、『風流御前二代首我』)、笠間書院、2017年、pp.124-125、629-630、677-678、704-705

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等(計 3件)

データベース

「西川祐信作品総合データベース」

<http://sukenobu.net/>

「近世期絵入百科事典データベース」

<http://dbserver.nichibun.ac.jp/EHJ/index.html>

国際シンポジウム企画・開催

「 - 近世期絵入百科事典データベース公開記念 - 書物にみる絵とことばの350年」
2017年7月24、25日、於：国際日本文化研究センター

6. 研究組織

(1)研究代表者

石上阿希 (ISHGIAMI, Aki)

国際日本文化研究センター・研究部・特任助教